

第二十二回帝國議會 國債整理基金特別會計法案外一件委員會會議錄(速記)第三回

會議

明治三十九年一月三十一日午後一時十六分開議

出席委員左ノ如シ

長谷場 純孝君	改野 耕三君	渡邊 修君
多田 作兵衛君	菅原 傳君	齋藤 珪次君
松本孫右衛門君	上埜 安太郎君	鈴木 藤三郎君
北村 左吉君	漆 昌巖君	宮崎 榮治君
竹田 千代足君	立川 雲平君	大石 正己君
藤澤 幾之輔君	角田 眞平君	守屋 此助君
西村 眞太郎君	合田 福太郎君	尾形 兵太郎君
藻寄 鉄五郎君	望月 長夫君	高梨 鉄四郎君
兼松 熙君	岡田 治衛武君	鈴木 總兵衛君
濱田 國松君	横田 虎彦君	荒川 五郎君
國谷 亨君	島田 三郎君	淺野 陽吉君
波多野傳三郎君	鵜飼 退藏君	小田 貫一君

出席國務大臣左ノ如シ

陸軍大臣 寺內 正毅君

大藏大臣 法學博士 阪谷 芳郎君

出席政府委員左ノ如シ

大藏次官 若槻禮次郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

國債整理基金特別會計法案(政府提出)

○委員長長谷場純孝君 是ヨリ國債整理基金特別會計法案外一件ノ第二項ノ委員會ヲ開キマス

○荒川五郎君 前會ニ御尋ネシタノハ、大藏大臣が今後外國デモ償還ヲ停止スル見込テ居タノデハナカ、ソレが實際失敗ニ終ツタ例モアル、ソレニ付イテ將來ノ御見込ト云フコトヲ言フテ、先キハドウナルカト云フコトヲ、大藏大臣ニ御質シ申ス譯デハナイガ、今日ノ狀態トシテ前々說明ヲ受ケマシタ通、公債ノ元利ハ恩給年金海陸軍ノ結果ニテ普通ノ國債が經常ノ費用ニ更ニ一億七千万バカリハ、是カラ先キ増加シテ往ク等デアアル、斯ウ云フコトハ首相邸ノ御說明ノ時分ニモ承リマシタ、其上ニ尙多數ノ費用ヲ入レルトスト、非常特別稅ヲ永久稅トシテモ、是デ明カニ將來維持ガ足ラヌコトガ分ツテ居ル、ソレハ斯ウシテアルト云フ見込ガナケレバ、案ハ出ナイと思フ、先キハドウナルカト云フコトマデモ今日責任ヲ持ツテ御答ヲ願ヒタイト申シタノデハナイ、今日ノ國費ノ計算上下ナルカト云フコトハ、算用ガ合ヒマセヌカラ其點ヲ御尋ネシタ譯デアリマス、其次ニ大藏大臣ノ說明ニ、將來關稅ニ是ヲ改正シテ、歲入ノ増加ノ中ノ例トシテ舉

ゲラレタ第一ニ、海關稅ヲ御述ベニナリマシタガ、此事ニ付イテモ大藏大臣ハ海關稅モ改正スルケレドモ是ハ安政以來分類ガ複雜シテ居ルカラ、分類ヲ改メタリ、生産的ニヤリタイト云フノデ、國費ヲ増加スルガタメニ、關稅ヲ改正スル見込デハ居ラナイト云フコトデアアル、大體ハ海關稅ハ海國ノ稅法ヲ整理スルノト、海關稅ヲ以テ殖産ノ發達ヲ獎勵スル上ニ於テ、海關稅ハ改正スルト云フ御答辯ニ承ツテ居リマス、然ルニ前回ノ說明デハ收入ノ増加ノ重ナルモノ、中ニ海關稅ヲ加ヘラレテ居ル、是ハ私ノ開達デアアルカ能ク伺ツテ置キタイ、其外ニ尙御說明ノ中ニ疑モアルガ、是ハ外一件ノ方ノ事ニモナリマスシ、以上ハ人々ノ見ル所デゴザイマスガ、此戰役ノ結果ニ伴ウテ、海陸軍ノ戰後ノ擴張ト云フモノハ何レ幾ラカ湧イテ出ルモノト思ヒマスガ、本年ノ豫算ヲ見ルト非常ニ切詰メデアアル、要スルニ他ニ澤山ノ費用モ要ルモノデアアルカラ、今年ハ先ヅ斯ウシテ置カウデハナイカト云フ位ニシカ見ラレナイ、ソレヲ指イテモ一億七千万圓ト云フ將來經常費ガ殖ヘルト云フコトハ、大藏大臣モ說明シ、私共モ承ツテ記憶シテ居リマスガ、ソレ等ニ付イテモ直チニ此法案ガ維持ガ出來マセウカト云フコトガ第一、第二ハ海關稅ト云フモノハ、若シ是ガ前回ニ御述ベニナツタヤウナモノデアッタラバ、ドウ云フ大體ノ方針デ改正ヲサレル積リデアアルカ、此ニ點ヲ伺ヒタイ

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 唯今海軍大臣ハ分科會ヲ開カレテ居ツテ急グト云フコトデアリマスカラ、其方ヲ先キニシテ陸海軍大臣ノ說明ガ終ツデカラ後ニ、私ノ方

ノ答辯ヲシタイと思ヒマス

○委員長長谷場純孝君 ソレハ宜シウゴザイマセウ、荒川君ニ申シマスガ、陸海軍大臣ハ他ノ分科會ガアツテ急ガカラ、陸海軍ノ質問ヲ終ツデカラ大藏大臣ガ御答スルト云フコトデス、左様御承知ヲ願ヒマス

○大石正己君 陸海軍兩大臣ニ御苦勞ヲ願ツタ譯ハ、臨時費ノ請求額ト云フモノハ、本年度ニ限ルモノデハアルマイト思ヒマスガ、是ハ凡ソ何年程度復舊費トカ若クハ其他ノ臨時費ノ中ニ請求セラレテアル額ハ、總額デ凡ソドレ丈要ルモノカ、又何年位繼續スルモノカ、凡ソ年額ニシテドレ丈ハ已ムヲ得ナイト云フ御見込カ、來年度ハ來年度、再來年度ハ再來年度ト言ハレ、バ、ソレマデアルガ、凡ソ一國ノ經濟ヲ料理シテ往クニハ、大藏大臣ヲ始メ二年ヤ三年ノ先ハ明カニ御承知ノ上デナケレバナラヌコト、考ヘル、今年ハ今年、來年ハ來年、成程今年限リノモノモアリマスケレドモ、臨時部ノ種目ヲ見ルト、ドウシテモ今年限リデ足ラヌモノガ大方アル、凡ソ國家ノ經濟ノ上ニ於テハ待設ケタルヨリハ、年々失費ノ増スノハ常デアアル、サスレバ茲ニ八千万圓ノ缺損ガアルトシテ、ソレハ恐ラク滿韓ノ經營其他國家ノ發展ノ上カラ一億二千万圓ノ不足ヲ生ズルカモ知レナイ、サナクトモ臨時費ノ請求セラレテアル所ノ戰艦銃砲等ノ此復舊費ハ、是ハ決シテ一年デ出來ルモノデナイ、來年モ亦請求セラレナケレバナラヌト云フハ、明カノコトト思ヒマス、凡ソ其見込ハ御立チニナツテ居ルコト、考ヘル、ダカラシテ陸軍ノ方デハ凡ソ今年ノ臨時費ノ中ニ請求シテアル四千五百万圓ト云フモノ——陸軍ノ方デハ來年ハ

凡ソ何千萬、大概繼續費ハ何年位積ムモノデアルカト云フ御見込ヲ承リタイ、海軍モ其通り、是ハ現在基金ノ設置トナルナラナイトニ付イテ、大切ノ關係ヲ有テ居ルコトデアルカラ、兩大臣ニ御苦勞ヲ願フ次第デアリマス

○陸軍大臣寺内正毅君 唯今ノ大石君ノ御尋ニ對シマシテ、陸軍ノ側カラ先ヅ御答ヲ致シマス、ソレニ付キマシテ、繼續トシテ將來要求シナケレバナラヌ所ノ復舊費カラ先ヅ御答シマス、陸軍ニ於テハ二年間ノ戰役ヲ經マシテ、此軍備ニ對シテ兵器其他万端ヲ復舊致シマス費用ガ、最初計上シテ見マシテ、尤モ計上シテ見マシテ數ハ、二年間戰爭ヲ繼續シタ材料ノ状態ヲ大体見マシタノト、將來ニ現今ノ基礎ニ於ケレタ軍備ノ人馬ニ對スル復舊ヲ概算シタノデアリマス、豫テ申ス通り正確ノ數ハ分リマセヌノデ、是ハ復舊費トシテ、實際ノ状態ヲ考ヘテ、凡ソ概算シタモノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス其大体ノ數ハ一億六千四百幾萬ト云フ數ニナリマス、是ガ復舊費トシテ將來要ラウト云フ金デアリマス、然ルニ御承知ノ通り戰役ヲ繼續スルモノトセバ、兵器彈藥其他ノモノガ出征シテ居ル者ニ給與スベキ準備ヲ總テ繼續シテ居リマシタカラ、繼續製作シテ居タモノヲ復舊ノ方ニ轉用スルトシテ、計算シテ差引キマシタ、其差引イテ轉用シタ金額ガ、九千八百幾萬ト云フモノニナリマシタ、ソコデ一億六千幾萬ト云フモノニ對シテ、三十九年度以後六年間ニ之ヲ分割シテ見タノデス、サウシテ請求スル金額ガ六千六百幾萬ト云フモノデアル、其中ノ二千五百萬圓ト云フモノヲ三十九年度ニ計上シタノデ、人馬其他ノ費用モ僅ニ這入ッテ居ルガ、二千五百萬圓ト云フモノニナッテ居ル、其以後五ヶ年間ニ於テ費用ヲ割リテ請求スル積リデアリマス、是ハ嘗テ總豫算會デモ申上ゲタヤウニ成ルベク速ニ總テノ復舊ヲシテ、非常ノ事ニ應ジ得ルノ準備ハ一日モ速ニシナケレバナラヌノデ、併ナガラ製作力ノ度ヲ考ヘマスルト實際此巨額ノ金ヲ一時ニ使フコトハ出來ヌノデアル、先ヅ大概緩急ヲ計シテ今後五年位ニ於テ之ヲ求メテ差支ガアルマイト云フノデ、見込ヲ立テ置キマシタ、此見込ハマダ大藏ノ當局者トノ相談ハ致シマシタガ、嘗テ申シマシタ通り決定ヲシタ正確ノ案トハナッテ居リマセヌ、其他ニハチヨット二千萬圓ノ臨時費ガアルノデ、是ハ千萬圓ガ四師團ヲ外ニ置クニ付イテノ臨時ノ費用、アトノ一千萬圓ガ滿洲其他樺太ニ於テ要スル費用、此二千萬圓ノ費用ハ將來ニ於テ戰時ノ状態ガ豫期ノ如ク彼ノ地方ガ靜穩ニ復シテ往ッタナラバ、或ハ多少減ルカモ知レマセヌ、併シ今日デハ三十九年度ニ於テ減ルト云フ見込ハ立チマセヌ、四十年年度ノ豫算ニ於テ、多少取捨ハ出來テ來ルカ知レマセヌガ、此二千萬圓ニ付テハ將來殖ヘルト云フ見込ハ先以テアリマセヌ、陸軍ノ臨時費デ三十九年度以後ニ關係ヲシマスルモノハ、唯今申上ケマシタ通ノ金額デアルト考ヘル

○淺野陽吉君 唯今陸軍大臣ノ御説明中ニ、九千萬圓ノ轉用ト云フコトヲ仰シヤッタガ、其内容ヲ一ツ、ソレト外ニ二千五百萬圓ト云フ復舊費ノ外ニ二千萬圓ト云フモノガアル、其二千萬圓ノ中ノ一千萬圓ハ、滿洲樺太ノ兵備、外ノ一千萬圓ハ私ノ所マデ御聲ガ通ラナクテ分リマセヌデシタカラ、二千五百萬ノ外ニ二千萬圓アルト云フコト、其轉用ト云フ御言葉ノ内容デケル今一應伺ヒタイ

○陸軍大臣寺内正毅君 九千八百萬圓ハ、今日戰闘ノ繼續トシテ準備シタ兵器ノアリタケデ、之ヲ差引イテ六千幾萬ニナッタト云フコト、ソレカラ其外ニ三十九年度ハ陸

軍ノ臨時費ガ四千五百萬圓ニナッテ居ル其四千五百萬圓ノ中二千五百萬圓ハ復舊費、アトノ二千萬圓ハ臨時ニ此四個師團ヲ外ニ置キマスル費用ガ、其中一千萬圓、ソレカラ他ノ一千萬圓ガ滿洲樺太ニ於テ臨時ニ占領シタ土地其他二兵備モアリマスガ、兵備行政費等ヲ含シタ費用、斯ウ云フ譯デアリマス、詳シイコトハ豫算委員會ノ速記ガゴザイマスカラ、ソレヲ御覽下サルト能ク分リマス

○海軍大臣齋藤實君 唯今大石君カラノ御尋ノコトニ付キマシテ、御答ヲ致シマスガ、復舊費ノ期限如何ト云フコトニ付キマシテハ、豫算總會デモ申上ゲテ置キマシタガ、正確ナル數字ヲ以テ御答辯ヲ致スマデニ、未ダ調査ガ進ンデ居リマセヌノデゴザイマス、而シテ今陸軍大臣ノ答ヘマシタルヤウニ、見込額ト云フコトニ付イテハ斯ウ云フ考ヲ持ッテ居ルノデ、併シ是ハ未ダ計畫トシテ御答スルノデハアリマセヌカラ、ソコハ能ク御了解ヲ願ヒタイ、若シ二千五百萬圓ツツ復舊費及手ヲ着ケマシタ所ノ艦艇補足費ト云フモノノ事業ヲ完結スルニハ、大概四十六年度若クハ四十七年度マデニ涉ルダケノ仕事ガアラウスウ云フ考デゴザイマス、二千五百萬圓ノ金ガ年々假ニ出ルモノトシテ、四十六七年度頃マデト云フ考デゴザイマス、併シ是ハホソノ見込デゴザイマス

○大石正己君 吾々ノ待設ケタル如クニ、此陸海軍大臣ノ御答辯ニ依ッテ臨時費ノ前途ト云フモノハ分リマシタ、ソコデ大藏大臣ニ對スル點ハ此陸海軍ノ繼續費ト云フモノニ對スル財源ハ、何處ヘ御求メニナル大概御見込デアルカ、或ハ増稅ヲシテ、之ニ充テルカ、若クハ公債ヲ募ッテ之ニ充テルト云フノ思召デアルカ、何レニシテモ此豫算ノ上ニハ大ナル缺損ヲ生ズルト云フコトヲ、今日ハ最早明カニ證據立デタコト考ヘマス其大缺損ノ一方ニアルニモ拘ハラズ、減債基金法ヲ設ケテ御ヤリナサヌト云フコトハ、果シテ國家ノタメニ財政ノ信用ヲ固クスルト云フモノデアリマセウカ如何、又假ニ譬ヘテ見ルト云フト、今ノ減債基金ト豫算ノ缺損ト云フ方カラ之ヲ公債ニ募ルト致シマスレバ、詰リチヨット申スト一方ニ一億萬圓ツツ、年々借りテ一方ニ一千万圓ツツ、拂ウテ往ク、斯ウ云フ理窟ニナルノデ、ソレハ初メヨリ九千万圓借りタ方が、手數モ省ケレバ、費用モ要ラナイト云フヤウナ譯デ、其方が却テ信用ヲ高ムルト云フ目的ヲ達スルニハ宜クハナイカ、斯ウ云フ疑ガアル、ソコアラタリノ疑ヲ一應伺ヒマス

○委員長長谷場純孝君 チヨット前ニ申上ケマシタ通り陸軍大臣ハ他ノ分科會ニ出ルコトガ迫ッテ居ル、ソレデドウカ陸軍ニ對スル御質問ガゴザイマスレバ其方カラ先キニ願ヒタイ

○望月長夫君 唯今陸軍大臣ノ御説明ハ能ク分リマシタ、尙一ツ確メテ御尋ヲ致シテ置キタイノハ今後——今後ト言ッテモ永久ノコトヲ申スノデハナイ、近キ將來ニ於テ少ナクモ來年度アタリニ於テ更ニ陸海軍ノ擴張ヲ要スルト云フヤウナ事柄ハナイカ、即チ今日求メテ居ル豫算以外ニ於テ、新タニ要求セラルヤウナコトハナイダラウカ、永久ノコトハ無論分リマセヌガ——又陸海軍ノ御説明ニ依ルト、今日迄ノ計畫ハ擴張デナイト云フ話デアルガ、今後ニ於テ少ナクモ近キ將來ニ於テ、唯今御説明ニナッタ新タナル費額以外ニ費額ヲ要スル、所謂擴張案ナルモノヲ御出シニナル見込ハ目下ナイノデアルカ、此點ヲ一ツ御説明ヲ願ヒマス

○陸軍大臣寺内正毅君 唯今ノ御問ニ對シテ簡單ニ御答ヲシテ置キマスガ、將來ノ

コトハ當テ總豫算會デモ申上ゲテ置キマシタ事、未ダ十分ノ調査モ遂ケマセズ又大体此調査ヲシテ國防ノ計畫ヲ立ツルコト云フ基礎ガ未ダ確カニナラズ居リマセヌ、即チ此戰後撤退ノ兩國ノ戰國線ヲ撤退スルトキモ、今ヨリ未ダ十個月ノ後ニアル十數月ノ後ニアル、斯ウ云フ譯デ、ソコデ將來ノ計畫ヲ立テテ御話スルコトハ出來マセヌ、故ニ此三十九年度ノ豫算ハ實際ノ此戰後ノ始末ヲスルダケノ計畫シカ立テ、居リマセヌ、今後ニ於テ前ニ申シタ國防ノ必要ニ依テハ、計畫ヲ提出シテ協賛ヲ得ル時機ガアラウト考ヘテ居リマシ

○島田三郎君 陸軍大臣ニ御尋ネ致シマスルガ、復舊ノ方ハ凡ソ六年デ片付クヤウニナラズ居リマシガ、他ノ二千萬圓ト云フハ、其内ノ幾分ハ何年繼續スルカ、幾分ハ永久ニナルカ分リマセヌ、只今ノ形勢デアルト、前途ノ分ラヌモノデ、經常ノ歳出ニナラウカト想像致シマスルガ、國勢ノ變ズルコトハ決シテ人力デ圖ルコトハ出來マセヌ、今日ノ模様デハ滿洲ノ兵ヲ引上ゲルト云フコトモ分ラヌ、經常ニ組入ルベキ性質デ、永久ノ二千萬圓トナルト、想像致シマスルガ、左様ニ了解シテ宜シウゴザイマセウカ

○陸軍大臣寺內正毅君 外ニ居ル師團其外滿洲ノ土地ニ於テ、防備其外ヲ施シタ費用ハ、是ハ將來ハ無論其中ニハ繼續費ニナルモノモアラウト思フ、今日ノコロコデハ臨時費ニシテアルガ、其内ノ一部分ハ經常費ニ移リ一部分ハ減ズルト云フヤウナ場合ガ出テ來ヤウト思ヒマス

○島田三郎君 陸海軍兩大臣ニ併セテ伺ヒタイト思フ、唯今ハ凡ソ胸中ニアルモノヲ打出シテ未ダ精細ニ國防ノ基礎ハ定マデ居ラヌカラト云フコトハ、イッレ來年度ニ於テ基礎ヲ定メタモノガ出ルト想像シナケレバナラヌ、之ガ出ルトキニハ少ナクモ、増スアッデ減ズルト云フコトノ想像ハナリ是以上ニ矢張基礎ヲ立アルコトト想像致シテ宜シウゴザイマスカ

○陸軍大臣寺內正毅君 只今ノ御問ハ頗ル答ニ迷惑ナ御問デアリマス、イッレ軍事ノ當局者トシテハ十分ナル計畫ヲ望ムニ相違ナイ、併ナガラ一方ニ此所謂國力財源ト云フコトヲ鑑ミナケレバナラヌ、イッレ此計畫ハ政府トシテ相當ナ考ヲ盡シテ、適當ナ案ヲ立テ、出スデアラウト思ヒマス、ソレヨリハ今チヨット御答ニ困リマス

○島田三郎君 御懇切ナル御答デ、頗ル其精神ニ私ハ満足致シマス、軍事當局者トシテハ軍事專門デ御計ヒニナルガ、國力ノ鈞合モ大ニ考慮ヲ加ヘネバナラヌ、此精神ヲ矢張他ノ法案ニマデ及ボシテ、減債基金ノ全體ヲ論スルコトヲ希望致シマス、全然軍事當局者ノ御希望通りデアッタバ、ドレ程完全ナルモノガ出來テ、ドレ程費用ヲ増スカ分ラヌカ、國力ノ點カラソレニ修正ヲ加ヘル必要ガアルト申シタラバ、唯今出テ居リマスルモノニ付イテモ、同ジク國力ヲ考ヘテ未來永却公債ニ據ルト云フヤウナ、危險ナ基礎デアラナラバ、卒サ事ノアッタトキニ軍隊ヲ動スノ費用ガ無イ、軍艦ヲ動かスノ費用ガ無イト云フ關係ガ起ルカラ、今カラ國力相當ナル御考案ヲ願ヒタイ、之ハ誠意ヲ以テ上下一致國ノ前途ヲ計ルコトヲ誠實ニ希望スル點デゴザイマス、今日カラシテ國力ヲ參考シテ、内閣全體ノ御考案ヲ煩シタイト思ヒマス

○海軍大臣齋藤實君 先刻望月君ノ御尋ニ對シテ、丁度陸軍大臣ガ答辯セラレタト同ジ方針ヲ政府ハ執テ居ルノデゴザイマスカラ、具體的ノ計畫ヲ立テタトキニ御説明

申上ゲルコトニ致シマス

○荒川五郎君 陸軍大臣ノ御説明ハ一億六千四百萬圓ノ内九千八百餘萬圓ヲ轉用シテ、六千六百萬圓ガ復舊費ニ要ルト云フ仰セデアッタ、サウスルト其六千六百萬圓ノ内デ、三十九年度ニ二千五百萬圓遺フ豫定ニナラ居ル、サウスルトアトノ四千百萬圓ガ先ヅ五六十年間ニ亘ツテ、必ス要ルベキ臨時繼續費デアルト云フ御説明ナノデスナ、ソレカラ海軍ハ二千五百萬圓位ヅ、出ストスレバ、四十六七年度マデト云ハレマス、海軍ノ復舊費ト云フモノハ、先ヅ將來七年ト見テ一億七千五百萬圓位ハナクテハ、此度ノ復舊ガ出來ナイト云フ御説明ナノデアリマス

○海軍大臣齋藤實君 ソレハ復舊費其モノバカリデハゴザイマセヌ、艦艇勢力補足ノ費用モ這入ッテ居リマス、ソレカラ數字ノコトハ御斷リ申シテ置イタ通り、何千何百萬圓ト云フコトハ今此處デ申上ゲルコトハ出來ヌガ、今日ハ成ルベク外ニ依ラズシテ、内ノ製造力ニ頼ッテ往クト云フト、時モ略ミソレ位ヲ要スル、ソレ故ニサウ云フ時間モ申上ゲタガ金ノコトハ全ク假定ノ話デアリマシテ、假リニ斯ウシタナラバト云フノデゴザイマスカ

○陸軍大臣寺內正毅君 望月君ノ御質問ノ金額デゴザイマスガ陸軍ノ復舊費ニ對スル金額ハ概數ヲ述ベタノデ、百萬以下ノ數ハ云ヒマセヌカラ、計算ヲシテ數字ニ集メテ見ル、ト多少差ガ、下ニハ出テ來マス

○淺野陽吉君 私ハ海軍大臣ニ御尋シタイト思フ、ソレハ豫算總會デモ問題ニナツタコトガアル、軍艦水雷艇製造基金問題ハ三十九年度ニハ組合セナイト云フ法律案ガ出テ居ルガ、彼ノ時ノ容子デ見ルト、海軍大臣ノ御答ニ依ルト、確カ、森本君ノ御質問デアッタト思フガ、何レ大藏大臣カラ答辯ガアルデアラウ、諸リ基金ノコトハ大藏省ノ所管ニ屬スルカラ、然レニ大藏大臣ノ答辯ハ頗ル明瞭ヲ缺イテ居ル、四十年年度ニ組入レルコトニ付イテ、六百五十六萬圓程新ニ海軍費ニ復舊シテ來ル譯ニナリ、豫算ノ上ニハ増スト云フ譯ニナリマスガ、當局ノ海軍大臣トシテ之ニ對シテドウ考ヘテ居ラレカ、モウシ是キリデ打切ッテ四十年年度ニ組入レナイト云フ考デアルカ、或ハ時機ガアレバ、從來ニ復舊シテ組入レヤウト云フ考デアルカ、又ソレヲ續イテ大藏大臣ニ御尋シテ置キタイト思フノハ、若シ財力ガ許サナケレバ四十年年度ニハ組入レナイト云フ腹案デアルカ、若ハ財力ガ足りナイデモ、公債ニ依ッテ組入レル四十年度以後更ニ此案ヲ立テ、往ク考ガアルカ、豫算總會ニ於ケル二人ノ答辯ガ頗ル不明瞭ニナラ居リマス、諸リ海軍費ノ膨脹ト云フコトニ關係シテ居ルシ、是ヲ組入レルカ、組入レナイカト云フコトハ、基金問題ニ關スル參考ノ資料トナルコトデアリマスカラ、御腹案ノトコロモウ少シ打明ケテ御話シテ願ヒタイト思ヒマスガ、將來ノ事ハ、將來ニ任セテ今日ハ知ラヌト云フコトヲナクシテ御腹案ノトコロ打明ケテ、御答辯ガ欲シイト思ヒマス

○海軍大臣齋藤實君 補充基金ノ事デ御尋デアリマスガ、是ハ三十九年度ノ歲計ノ豫算上已ム得ズ組入ヲ停止セラレタノデアリマセウ、海軍ニ於キマシテハ、此法律ノアラシ限ハ組入レラレルコトヲ勿論希望スルノデアリマス、ソレカラ其四十年年度ニ於テ如何ニスルカト云フ問題ハ、大藏大臣ノ方ノ向ニナリマスガ、ソレハ今年度ニハモウ組入レヌト云フコトニ御承知ヲ願ッタラ宜カラウ

○淺野陽吉君 ツレハ大藏大臣ニ御問ヒ申シマス、若シ財力が許サナケレバ組入レナ
イト云フコトデアル、許スナラバ如何ニシテ組入レルト云フ 御腹案ノコロデアリマス、海
軍費ノ膨脹スルト、六百万圓近クニ關係ヲ持ッテ居リマスカラ、其方ノ御腹案ヲ承ッ
置キタイ

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 大石君ノ御尋、其他段々ノ御尋ニ對シテ御答ヘ
致シマスガ、此三十九年度ノ財政計畫ノ立方ニ付イテ意見ヲ異ニスルト云フ以上ハ、ソ
レハ御互ニ已ムヲ得ヌデアリマス、議論ガ異フコトニナッテ來レバ、各是トスルトコ
ロヲ主張スルヨリ外ナインデスガ、政府ノ此戰後ニ對スル財政計畫ノ主義方針ト云フモ
ノハ、明カニ御了解ヲ願ッテ置カケレバナラヌ、既ニ豫算委員會デモ申シマシタ通ニ、此
三十七年二月ニ日露開戰以來ト云フモノハ、實ニ此日本ノ國力ニ對シマシテハ、非常
ニ重大ナル負擔デアルノデ、此位財政ノ運用ノ困難ト云フコトハ、固ヨリ申スマデモナイ
コトデアリマスノデ、今ヤ平和克復ニナリマシタニ付キマシテハ、其跡始末ヲ着ケルコトニ
付イテ、又ソコニ種々ナル難題ガ生ズルト云フコトハ、是又明カニ皆様ノ御諒承下サルコ
トト存シマス、三十九年度ノ財政計畫ヲ定メマスニ付キマシテハ、ナカ／＼ヤカマシキ議
論ガアツタノデ、併ナガラ兎ニ角此戰爭ニ出テ居ル軍隊ハ未ダ凱旋セヌ、總テガ平時ノ有
様ニ復サヌト云フコトデ、イロ／＼議論ノ結果節約ヲ努メタニモ拘ハラズ、矢張一億
三千万圓ヲ要スルト云フ、元來此異常ナル有様ヲ呈シテ居ルデアリマス、此關係カラ
推シテ行ケバ、四十年年度ニ於テドウナルカト云フ 御心配モゴザイマセウ、去リナガラ此三
十九年度ト云フハ此詰リ戰爭ノ關係カラシテ、未ダ諸般ノ事ガ平時ニ復サヌモノデアリ
マスカラ、始終費用ヲ要スルト云フコトニナッテ居リマシテ、事態ガ多クハ臨時ノ性質ニ屬
スルモノト判斷シテ宜イデアリマス、ソコデ其財政上ニ付イテモ、此一般ノ政治上ニ付
イテモ、何ガ一番大切ノ問題デアルカト云フト、詰リ借金ノ始末、即チ借金ヲ如何ニ始
末スルカト云フコトハ、ドウシテモ戰後ニ第一ニ起ル問題デ、陸海軍ノ問題、農工商ノ
問題何レモ大切ニハ相違ナイガ、併ナガラ先決問題——先ツ天引ニシテ決定シナケレ
バナラヌ問題ハ、此借金ノ仕末ヲドウスルカト云フ 即チ此戰爭ノタメニ起シタル公債ノ
處分案ヲ解決シテ置クト云フコトガ、一番ドナタモ御考ヘニナリマセウ、第一番ニ生ズル
問題デス、又此モノガ決定セヌ以上ハ、後トノ問題ヲ解決スルコトガ出來ナイコトニナ
ル、即チ自分ノ發行シタル公債ハ、價格ガ維持ガ出來ヌ、從ッテ借金ノ始末ガ付カヌト云
フコトニナレバ、後トノ計畫ノ立チヤウハアリマセヌデアリマス、其故ニ此度ノ政府ノ財政
計畫ニ於テハ公債ノ始末ヲ着ケルコトヲ、第一ノ問題トシテ——先決問題トシテ、先
ヅ解決シテシマウト云フ考ニ、最モ重キヲ置キマシタ次第デアリマスカラ、即チド／＼シ
ク申シマスガ、減債法案ニ付キマシテ、諸君ノ御協賛ヲ幾重ニモ希ヒマス 次第デアリマ
ス、サウシテ四十年年度ニナッタ場合ニ、ドウスルカト云フ大石君ノ御尋子デゴザイマスガ、
四十年年度ニ如何ナル要求ガ各省カラ起リマシテモ、此減債問題ヲ、イロ／＼年々方針
ヲ變ヘルト云フコトハ出來ヌデアアル、即チ如何ニ各省ノ要求ガ強クアルトモ、財政ノ根
據ヲ碎イテ各省ノ要求ニ應ズルコトハ到底出來ナイ、又之ヲスルナラバ則チ日本ノ一體
ノ信用ヲ碎ク、從ッテ諸般ノ經營ト云フモノモ、元ガ崩レテ來ルデアラウト考ヘマスノデ、
成程陸海軍ノ當局カラ今モ御述ベニナリマシタ通、イロ／＼ナル御要求ガアリマス、是ハ

獨リ陸海軍バカリデナク又朝鮮ノ經營ニ付キマシテモ、又其他ノ各省ノ要求ニ付キマシテ
モ、イロ／＼ナモノガ出マセウ、出マセウケレドモ、ソレヲ一一要求ニ應スルト云フコトハ、國
力ガ許サヌデアアル、其内ニ付イテ國力ニ鑑ミ、最モ適當ナル方法ヲ立テ、是ヲ解決シ
テ往カナケレバナラヌデ、今年デモ即チ戰爭ガモウ少シ早ク濟ミマシテ、即チ昨年初メニ
平和ガ克復セラレテ、十分滿洲朝鮮其他國防上ニ付イテノ問題ハ討窮スル餘地ガアツ
タ、必ズ今年ノ議會デ決定セララル問題ガ澤山出來タカモ知レヌガ、ソレハ即チ事情ガ
許サヌ、時ガ許サヌト云フコトニナッテアリマスカラ、決シテ政府ガ逃レル積デ——辯明
ヲ逃レル積デ私ハ申スノデナイ、誠ニ明々白々タル道理デアラウト考ヘマス、即チ四十年
度ノ問題ニ付イテハ、財政計畫ヲ立テル上ニ付イテハ、餘程ヤカマシキ問題ガ起ラウト思
フケレドモガ、ソレガタメニ、國家ガ内外ノ信用ヲ失スルト云フヤウナ悲運ニ陥ルト云フコ
トハナイ筈デアアル、又是ラセシメテハナラナイ、如何ニ四十年年度ノ要求ガ偉大デアラウトモ、
又各省カライロ／＼ナル御註文ガ多カラフトモ、此借金ノ始末ヲ如何ニスルカト云フコ
トニ傷ガ付カヤウナコトハ、ドウシテモ許サヌト考ヘル、淺野君ノ御問ニ對シテモ略々今
大石君ニ御答ヘシタ意味デ御了解ガ付クト思ヒマス、又荒川君ノ御問ニ對シテ、一
半ハソレデ御答ガ出來タト思ヒマス、唯荒川君ノ御尋ノ内ニ、關稅ノ事ニ付イテ、小サナ
御話シガアリマシタガ、此關稅定率ヲ改正スルニ付イテ、今年ノ議會ニ出ス方法ハ、荒川
君ノ御尋ノ通りデアリマス、收入ガ殖ヘル云々ト云フコトハ、是ハ又別ノ話デハ即チ四
十四年ニ關稅ノ協約ガ變ルト云フ目的ヲ調べルモノ、上ニ付キマシテハ、收入ノ際ニ増
シテ來ルト云フコトヲ別ニ御話シタト考ヘテ居リマスノデ、二ツノ話ガ一ツニ混シテ居
ヤウニ考ヘマス

○横田虎彦君 私モ大体ニ於キマシテ、三點程質問致シタイ、前回以來諸君ヨリ段
段御質問ガアリマシテ、大ニ本案ノ大体ニ於キマシテ了得ヲ致シマシタガ、尙茲ニ私ガ御
尋ヲ致シタイト云フ點ハ、實ハ唯今ノ大藏大臣ニ御尋ヲ致シマスルト云フコトハ、少シ
無理カモ知リマセヌガ、首相ガ御出席ガゴザイマセヌカラ、已ムナク質問致シマス、凡ソ
吾々ノ協賛ノ議ヲ盡シマスノニハ、問題即チ其ノ法案ノ可否ト云フコト、ソレカラ其法
案ヲ實行スルト云フ即チ政府ノ信任如何ト云フコトガ必要ニナッテ來ル、假令法案ガ如
何ニ善良デゴザイマシテモ、時ノ政府ニ對シテ信任ガ惡ルト云フ場合ニハ、協賛ガ出來
ナイト云フヤウナ考ガ起ルデアリマス、ソレデ私ガ此點ニ付イテ確メテ置キタイと思ヒマス
ルノハ、過般豫算會議ニ於キマシテ、首相ガ豫算案全體ニ付イテ御答辯ノ趣旨ヲ案ジ
マスルト、何分ニモ今回ノ議會開會ノ間際ニ至ッテ、内閣ヲ引受ケタモノデアルガ故ニ、
十分ノ調査ヲナスノ関ガナクシテ、前内閣ノ大體ノ方針及精神ヲ踏襲シタルデアアル、
斯ウ云フコトノ御答辯デアリマシタ、是ハ至極事情ニ於テ尤ナルコト、本員ハ信ジマス、
茲ニ私ガ疑點ヲ抱キマスノハ、即チ其首相ノ答辯ノ意味ヲ半面ヨリ觀察ヲ致シマス、
今回ノ豫算或ハ是ニ附屬シタ所ノ諸法案ノ如キモノハ、現内閣ハ之ヲ十分ニ責任ヲ
負フト云フコトハ出來ナイ、謂ハハ十分ニ安心完全ナモノトハ思ヘナイケレドモ、已ムヲ
得ズ調査ノ関ガナイガ故ニ之ヲ踏襲スル、斯ウ云フ風ノ意味ガ其間ニ存在ヲ致シテ居
リハセヌカト云フ疑ガアル、尤モ過般首相即チ吾々ガ參席ヲシテ御話ヲ承リマシタ際ニハ、
十分ノ調査ヲナスノ関モナイノミナラズ、前政府カ計畫ヲシタ方針等ニ於テハ、自分モ

全然賛成アルが故ニ、是ヲ踏襲スルコトニ致シタ、斯ウ云フコトヲ承ツタ、然ルニ豫算會議ノ答辯ニ依リマス、唯取調スル閣ガナイカラ、故ニ踏襲スル、斯ウ云フヤウナ意味ニナツテ居リマス、甚ダ私ガ茲ニ懸念スルコト云フモノハ、即チ今日ノ政府ハ此案ヲ假令踏襲シタニセヨ、ドウシタニセヨ、是ヲ提出スルニ至ツテハ、十分ニ調査ヲナスノ閣ガナキノミナラズ、全然之ハ賛成アル、即チ自分等ノ意見ト、前政府ノ計畫ヲナスモノトハ、大體ニ於テ相違ノナイト云フコトヲ謂ハハ、一言責ヲ得タイ、サウデナケレバ吾ガ協賛ヲ盡ス上ニ於テ甚ダ不安ノ念ヲ抱クト云フ意味アルカ、過日首相邸御調ヲナスノ閣ガナカッタ故ニ己ムナク踏襲シタト云フ意味アルカ、過日首相邸御話ニナリマシタヤウニ取調スルノ閣モナイガ、且之ハ賛成アルが故ニ提出シタノデアル、踏襲シタノデアル、斯ウ云フ意味アルカ、其點ヲ今ノ大藏大臣ニ問ヒマスノハ、少シ具合ガ惡ウゴザイマスケレドモ、併ナガラ全ク場面モ違ッテ居リマスカラ、今日ノ大藏大臣ニ於テ御答ヲ得マシテモ、差支ナイト思ヒマス、此點ヲ一應伺フテ置キタイ、ソレカラ第二デアリマス、第二ノ點ハ此基金問題ニ付キマシテハ、私共ハ主トシテ政究ヲシナケレバナラヌト云フノハ、即チ此法案ノ精神デアリマス、ソレハ借金ノ始末スル大體ノ趣意ハ固ヨリ宜シウゴザイマス、此國家財政ノ信用ト云フモノヲ維持シ、之ヲ鞏固ニスルコト云フノハ、徹頭徹尾本案ノ精神デアル、故ニ果シテ此案ヲドウスルモノカ、此案ニシテ遂行ガ出來ルカ否ヤト云フコトハ、私共ガ尙腦漿ヲ費サナケレバナラヌ、問題デ、是ニ付イテ前回ニ於キマシテ、イロ／＼ノ方面ヨリ質問ガ起リマシテ、具サニ御答辯モゴザイマシタカラ、大體ニ於テ了承シマシタガ、尙私ハ期限ノ點ニ於テ一ノ疑ヲ存スルデアリマス、前回御廻シニナリマシタ所ノ表ニ依リマス、凡ソ三十五箇年位ヲ要スル、國家ト云フ上カラ割出シマスレバ、三十年三十五箇年、彼ノ能ク申シマス國家百年ノ長計ト云フコトヲ申シマスカラ、是モ宜シウゴザイマセウ、併ナガラ實際ニ於テ、今日ノ總テノ國勢ノ上大體ノ狀態、殊ニ政治上ノ問題ト致シマシテ國家百年ノ長計ト云フコトハ唯云フベクシテ行フベキノデナ、決シテサウ云フモノデナ、然ルニ凡ソ三十五箇年間ト云フ間ニ、斯ウ云フ方法ヲ以テ償還スルノデアルト云フコトヲ是ヲ假ニ宣言ヲ致シテ見マシタコロデ、更ニ今日ノ列國ノ狀態、例ヘバ日英ノ同盟ニ依リマシテ、東洋百年ノ平和ヲ得ルト云フコトヲ能ク申シマスケレドモ、是等ノコトハ夢裏ノ談、凡ソ今日ノ狀態ヲ見マス、先ツ十年位ニハ必ズ國ニ大事ガ起ル、況ヤ東洋ノ有様カラ申シマス、ナカ／＼十年ノ間ノ平和ト云フコトヲ見ルト云フコトハ、如何デアラウカト云フコトヲ私ハ懸念スル假令日英ノ同盟ガ是ニ今一國ノ大國ヲ加ヘマシタコロデ、決シテ此東洋ノ平和ヲドト云フヤウナモノガ、二十年モ三十年モ此儘往ケルモノデアルト云フコトハ容易ニ信ズルコトハ出來ナイ、固ヨリ是等ハ東洋ニ特別ニ起ル事柄デアリマスカラ、左様ナ非常ナコトヲ豫期シテ此案ナド云々スルト云フ譯ニハ參リマセヌケレドモ、凡ソ十年位ニハ必ズ列國ノ有様ヲ見テモ、此國ニ一ツノ變事ガ起ル、戰爭ガ起ルト云フヤウナコトハ、歴史ノ上統計ノ上デ明ニナツテ居リマス、今日ノ狀態カラ見テ、十八億方、二十億ニ近イ借金ヲ二十年、三十五年ニ至ツテ、全ク斯ウ云フ方法デ還濟スルコト云フコトノ案ヲ示シマシタコロデ、是デ以テ果シテ一般ノ債主ガ安心シテ、ソレナラバ安心デアルト云フヤウナ信用ノ證ヲ得ルト云フコトガ出來ルカ、ドウカト云フコトハ、一ノ疑問デアリマ

スカラ、ソレ等ノ大體ノ形勢ノ上カラ、當局者ノ御考ハ如何デアラウカト云フコトヲ一ツ御尋ヲ申シタイ、第三ニハ過般豫算會議ニ於キマシテ、大藏大臣ノ答辯ニ、彼ノイロ／＼國家經濟ノ信用擴張ト云フ上ニ於テ、正貨ノ流出、是ハ最モ憂フベキコトデアル、然ルニ今日ノ狀態ニ於キマシテ、多額ノ正貨ガ流出シ、輸出入ノ平均ヲ保ツコトノ出來ヌコトハ明カデアル、然ルニ今直チニ此法案ヲ設ケテ、借入金ヲ返スト云フコトニナレバ、一面ニハ正貨ノ流出ヲ助長スルヤウナコトガアリハセヌカ、今日ノ我國ノ經濟如何ト云フ質問ニ對シテ、大藏大臣ノ答辯ニハ、左様ナコトモアルカラ、内債ノ方カラ償還スルコト云フコトデアツタ、所ガ内債ノ中デ、戰時ニ發行シタ第一、第二、第三、第四、第五ノ國債ノ如キハ、現在ニ於テ此多額ノ公債ハ内債トシテ募集セラレタニ拘ラズ、外人ノ手ニ移ッテ居ルモノガ多イ、十億位ハ外人ノ手ニ落チテ居ル、第一、第二、第三ノ如キ、殆ド私ノ見ル所デハ、七分マデハ外人ノ手ニ落チテ居リハセナイカト思フノデス、實際此邊ノ事ニ注意シテ、特ニ内債カラシテ償還スルコト云フコトハ、成程表面カラ見マスレバ、内債ヲ償還スルコト云フコトニナリマスケレドモ、其實際ニ於テハ矢張り外債ヲ償還スルコト同ジコトニナリハセヌカト思フノデス、其邊ニ付イテ御答辯ハ如何デアルカ、以上三點ニ付イテ御答ヲ願ヒタイ

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 凡ソ政府カラ提出スル議案ニ付イテハ、政府ハ充分ノ責任ヲ取リマス、是ハ別ニ御答辯ノ必要ハナイト思ヒマス、ソレカラ年限ノコトニ付イテ御尋デゴザイマスガ、年限ヲ短カスルコト云フコトハ、至極結構ナコトニハ違ヒナイケレドモ、先ツ十八億カラノ國債デゴザイマスレバ、凡ソ三十五年ヲ定限トスルコトハ、我今日ノ財政經濟ノ力ノ上カラ必要デアルト思ヒマス、而シテ基礎ガ固クナルト云フコトハ、法律ヲ以テ明カニ定メラレ以上ハ内外人共、之ニ向ッテ信用ヲ置クヤウニナルコトハ、申サズトモ明カナコトデアリ、年々ドウ變ハルカ分ラズ、ドウ云フコトデ償還シテ往クカト云フ不安ノ念ト云フモノハ、全ク除去ルコトガ出來ルノデアリマスカラ、明カニ方針ヲ掲グルト云フコトニ、非常ナル力ヲ公債ノ信用ヲ維持スル上ニ於テ得ベキコトハ疑フ容レヌト思フ、公債ノ信用ガ維持セラレ、低利ニ之ヲ償還シテ往クコトガ出來ルカラ、三十年ト見込デモ是ハ非常ニ年限ハ短縮セラレ、コト、思ヒマス、今日ニ於テハ三十五年或ハ其上ニモナリマセウガ、此目的ヲ十分達スルコト云フ上ニ於キマシテハ、其實際ニ於テ年限ヲ短縮スルコトガ出來ル、年限ガ短縮スルニ從ッテ帝國ノ公債ノ信用ハ益々上ッテ來ルノデアリマス、ソレカラ正貨ノ流出ニ付イテ御尋デアリマスガ、是ハ成程外國人ガ持ッテ居リマス、ソレガ故ニ此度四回五回ノ六分利附内債ヲ整理致シマスルニハ、即チ外國デ資金ヲ求メマシタノデ、四回五回ノ二億圓ノ國庫債券ノ中、凡ソ外國人ガ持出シタモノガ多ウゴザイマスカラ、之ヲ整理スルニハ外資ニ依リマシタ次第デゴザイマス、他ニ一回二回三回ノ分モ多少ハ出テ居リマセウケレドモ、是ハ左程大ナル高ハ出テ居リマセヌノデス、從ッテ此内債ヲ償還シマシタ結果、若シ帝國ノ信用ガ増シマスレバ、始終實際ノ貿易關係其他ガ有價證券ヲ以テ皆濟セラルト云フ結果ヲ見デアラウト思フ、是レハ申スマデモナイコトデアリマスガ、亞米利加或ハ英國、其他歐羅巴ノ關係ノ上ニ於キマシテ、正貨ノ出入ト云フコトハ始終有價證券ニ依ッテ皆濟セラレテ居リマスカラ、經濟ガ安固ナノデアリマス、不幸ニシテ我國デハ有價證券ノ國債的取引ガ十分發達シテ

居リマセヌカラ、甚シク不便ヲ感シテ居リマシタノデ、一年貿易ノ上テ不結果デアルト多額ノ正貨が流出スルヤウニナリタノデアリマスガ、今後ソレ等ノ事ハ頗ル便利ニナラウト思ヒマス、サウシテ見ルト國債ヲ償還シタメニ、正貨ヲ取去ラレト云フヤウナコトハナクナル、併ナガラ此方ノ富ヲ増加シテ、大ニ外國人ノ持ッテ居ルモノヲ償還シテ往カケレバナラナイ、丁度亞米利加ノ南北戦争後ニ、多クノ國債ヲ外國人ニ持タレタガ、次第ニ回收ラシタト云フノト同ジコトニナラウト思ヒマス、同時ニ此方ノ國力が増加スルノデアリマスカラ、サシテ不平均ヲ來タスト云フコトハ無クナルデアリマス、故ニ横田君ノ御尋ノ點ハ十分ナル注意ヲ以チマシテ急ニ兌換券ノ準備ヲ引出サレト云フヤウナコトハ致シマセヌノデ、自然ノ平均ヲ保タシテアル積リデアリマス

○守屋此助君 私ハ二個ノ點ニ付イテ質問ヲシタイデアリマスガ、第一ハ日本ノ政治上經濟上ニ、今大キナ問題トシテ横ハッテ居ル鐵道統一論——鐵道統一論ノ統一ノ方法ノ一ツトシテ、世ニ傳フル如クンバ、國有鐵道ト云フコトガアル、サウスレバ必ズヤ私ハ此國ノ公債ト云フモノハ陸海軍ノ擴張トカ、此等ノ問題ニ依ッテ國債ハ殖ヘサウデアアルガ、ソレハ鐵道統一ガ方法ノ一ツデハナイガ、手近カナ、所ハ鐵道國有論ト云フノガアル、此事業ニ付イテハ政府が責任アル二ツノ答辯ヲシテ欲シ、ソレハドウ云フ事カト云ヘバ、戦争ノ後日本ノ總テノ事柄ノ組織ト云フモノハ、大ニ大國のニナラケレバナラナイ、改良進歩ヲ計テ往ク上ニ大國のデナケレバナラナイ、今日ノ如ク鐵道ガ小サナル小規模ニ依ッテ色々ナ事ヲシテ居デハ、運賃ガ高クシテ營業費ガ餘計ニカ、ルト云フ不都合ナ經濟ニナラケレバナラ、之ヲ統一スルト云フコトハ舉國異論ハナイト思フガ、此事ニ付イテ第一統一ヲ計ルト云フコトハ、今政府ハ其決心ヲシテ居ラレカ否ヤ、此ノ態度満足シテ居ルヤ否ヤ、ドウモイッモアヤフヤ分ラヌノデアアル、此事ニ付イテ私ハ三ツノ方法ガアル、政治家が責任アル答ヲスルコト、即チ今日ノ儘涙ヲ揮フデ此儘ニウツチャツテ置キマス云フガ宜イ、サウデナクアヤフヤデ曖昧模稜ノコトヲ言フノハ、自然政治モ曖昧模稜ノ政治ニナルカラ、經濟上ニモ不安ノ念ヲ懷カセル、ドチカラカハキリシテ御答ヲ願ヒタイ、是ハ確ニ日本ノ經濟財政ノ内外ニ向ッテ信ヲ置ク一ツト思ヒマスカラ、政府ハ此三ツノ中デ一ツヲハッキリ言フデ貫ヒタイ、第一統一スル、統一セヌ、其真中ノアヤフヤナ事柄ハ、成ルベク政治家ノ德義トシテ言ハヌヤウニシテ欲シ、ソレデ統一デモ必スヤ國有論ト極ッタコトハナイ、統一ノ仕方ハナンボウモアルガ……

○委員長長谷場純孝君 守屋君、此法案ニ近イ質問ヲ願ヒマス
○守屋此助君 國有論ニスルト云フコトニナレバ、此公債ハ詰リ殖ヘルト云フコトニナラ、其點ニ就イテ政府ハ責任アル答辯ヲ願ヒタイ、今後ノ國ノ公債ノ殖ヘル殖ヘヌト云フコトニ付イテ、此法案ヲ極メニ於テ考ヘナケレバナラヌ、ソレカラ第二ノ問ハ此國債整理基金特別會計法ト云フモノハ究極スル所ノ公債ノ價格維持スルコトヲ事柄デアアルノデアアル、茲ニ政府當局者ガ御述ベニナルガ此價格ヲ維持スルコトニ付イテハ、日本ノ國債ハ今ノ所デ十三億デ、前ノハ六億程アル、此後御募リニナルト、合計二十四五億ニナルガ、此國ノ公債ガ自國ノ取引所ノ取引ニ上ラズ、倫敦ノ市場ニ上ッデ、倫敦相場デ自國ノ二十幾億ノ公債……是ハ何ニ基イテ居ルカ、日本ノ國ノ取引所ニ上ルコトニナレバ、確ニ國債證券デモ何デモ所謂公債ニ屬スルモノ、相場ハ、確ニ高クナリ、取

引ガ圓滿ニ出來ルカラ、今日抵當ニ取ッテモ銀行ガ五萬圓十萬圓ト云フモノヲ處分シヤウトスレバ、其相場ガ下ル、銀行ガ處分スレバ出來ルカラ、流通ガ圓滿ニナリ、圓滿ニナルト同時ニ此相場ハ保テラカ、取引所ノ取引ハ盛ニナルガ、其方針ニ向ッテ政府ガ立テラレト云フコトガ、國債證券價格維持ノ方法デアアル、之ヲ妨ゲテ居ルノハ政府ノ行動ガ妨ゲテ居ル、ソレハ何デアアルカト云フト、取引所ニ於ケル國債證券類ノ取引ニ過重ナル稅ガアル、其故ニ稅目ガアッデモ一文モ大藏省デ取ッテ居ラヌノデアアル、稅目ガアッデ、稅ノ取レヌ稅ハ此稅ガデアラウト思フ、稅目ガアッデ稅ノ取レテ居ラヌト云フハ餘程トボケタコトデアアル、斯ノ如キ稅目ヲ置イテ大藏省ハ一文ノ稅モ取レズ、取引ハ圓滿ナラザルタメニ上グベキ價格ガ上グズニアル、斯ウ云フモノヲ除去スルト云フコトハ、政府ニ於テ決心ガアルカナイカ、是ヲ御問スル

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 第一ノ鐵道統一ノコトデ、是ハ主務省デ以テ調査中デアリマスカラ、此所デマダ何トモ御答致シ兼ねマス、詰リ閣議ノ決定ノ上、更ニ御答スルコトニ致シマス、ソレカラシテ取引ノコトニ付キマシテハ、昨年モ守屋君カラ屢々豫算會デ御論ガ出マシヤウニ考ヘマス、成程御話ノ通りニ不完全ナ取引所ノ有様ニナッテ居リマス、是ハ餘程取引所ノ改良ヲシテ、矢張倫敦、紐育、巴里、東京ト云フヤウナ取引所ト云フモノハ、十分公同ノ信ヲ保ツヤウニシナケレバナラヌ、サウデナケレバ種々證券ノ賣買ニ非常ニ不便ヲ爲ス、就キマシテハ差向キ公債證書ノ取引稅ハ廢シタイト云フ案ヲ持ッテ居リマス、其法案ハ此議會ニ提出スル考デアリマス

○大石正己君 先程御尋ヲ致シマシタケレドモ、ドウモ要領ヲ得テ御答ヲ得マセヌ、併ナガラ是ハ御答ニナラヌコト、シテ、敢テ其事ヲ御尋ハシマセヌ、茲ニモウ三ヶ條バカリチヨット御尋ヲシテ見タイ、ソレハ先程御話中ニ財政ノ都合ニ依ッテ、如何ニ陸海軍カラ請求シテ來テモ、其他ノ方面カラ金ノ必要ヲ訴ヘテ來テモ、必ズ之ニ應ズルト云フモノデハナイ、即チ是ハ喰留メテ、金ハ成ルタケ使ハセヌヤウニスルト云フヤウナ意味ノ御話ガアッタヤウデアリマスガ、併ナガラ我々ガ見タコロコデハ、陸海軍ノ復舊費トカ、其他補充ノ費用トカ云フモノニ於テハ、一年限リテ之ヲ打切ルト云フコトノ出來ヌモノガ大分アル、大分アルドロコデナイ、大部分ヲ占メテ居ル、此方ニ付アハ、大藏大臣ハソレデモ財政ノ都合デ喰留メルト云フ御決心ガアルナラバ、ソレマデノコトデアアル、先ツ此當年度ノ豫算ニ已ムコトヲ得ストシテ出サレタモノ、繼續ト云フコトハ、到底是ハ防留メラヌモノニナリハセヌカ、斯ウ云フノガ一ツ併ナガラ是以テ喰留メルト云フ御話デアアルカ、先ツ一年限リデ打切ッテシマフコトガ出來ヌ所ノ要求額ガ八九千萬圓——先ツ八千萬圓位ハ確ニアラウト思フ、サスレバ此金ニ對スル歲入ト云フモノハ今日ノ場合無イ、増稅ヲスルニアラザレバ無イ、是ハ來年モ亦公債ヲ募ッテヤルト云フコトニナリマスガ、若シ之ヲ公債ニ募ッテ此必要ニ應ズルト云フコトニナレバ、減債基金ノ方ニ於テ利息ヲ拂ウタ後ト金ハ二千萬圓カ三千万圓デアアル、一方二八千万圓ノモノヲ借ルト云フコトガアレバ、即チ減債基金ノ二三千万圓ノモノヲ拂フト云フコトハ、拂フヨリ多クノ借錢ヲ一方ニシテ往クト云フコトハ明カナ事デアアル、ソレデ果シテ財政ノ信用ガ持セラル、モノデアアルカ、モウ一ツ御尋シテ見タイノハ大藏大臣ノ御見込ハ今ノ日本帝國ノ財政經濟ノ力ト云フモノト、現ニ我國ガ背負ウテ居ル所ノ二十四億圓、此公債ト云フモノトハ是ハ危險ト云フ御考ガアル

カ、マダく借リレバ此先五億八億ノ金ハ借リテモ決シテ危險ガナイト云フ、是ハ餘程考物デア、此點ガ即チ財政ヲ料理スル人ノ頭ニ最早此二十何億ト云フ金ハ、日本ノ國力ニ比較シテ餘程危險デアルト云フ觀念ガ起レバ、自ラ財政ノ整理モ段々之ヲ……ト云フ方ニ傾カ、茲ニ考ラ極メズシテ、二十四億ノ國債ハ何デモナイ、マダ日本ノ國ガ必要ガアルトスレバ、借リテモ宜イト云フコトニスレバ、段々はカラ先キ政府ノ政策ハ金ヲ借リテモヤッテ行クト云フコトニナル、ドウシテモ此財政ノ信用ヲ確定スルト云フコトハ、八千万圓借リテ三千万圓返スト云フヤウナコトハデナイ、詰リ借リヌト云フコトデ、財政ノ信用ト云フモノヲ確立スルノデアヲ考ヘル、ソレデ財政ノ信用ヲ確立スルタメニ借リヌト云フコトニシテ、此年々日本帝國ノ歲入ト云フモノヲ限度トシテ、サウシテ此歲入ノ力ニ應ジタケノ仕事ヲシテ往クト云フコトニナレバ、財政ノ信用ヲ確立スルデアラウ、其御見込ハドウデアルカ、必要ト云ヘバ、ドウデモ言ヘル話デ、海軍ヲ五十万噸ニスルノモ必要、七十万噸ニスルノモ必要、陸軍ヲ百万ニスルノモ、百五十万ニスルノモ必要デアアルガ、大藏大臣タルモノガ其實權ヲ以テ日本帝國ノ財政ニ信用ヲ確立スルニ足ルト云フ方針ヲ御極メニナッテ、ソレカラ割出シテ財政ノ料理ヲナサルナラバ、其信用ヲ確立ニスルコトガ出來ルト云フ、御見込ハ如何デアリマスカ

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 第一ノ御尋ニ、此復舊費ト云フモノニ付イテ御尋デアリマシタガ、是ハ前ニ御答致シマシタ通ニ、此四十年度ニ於テ、各省ノ要求ヲ料理スルト云フコトハ、則チ此大藏省ノ職務デアルノデス、其料理ヲスル場合ニ於テ國力ニ應ゼヌ料理ハ出來ナイデアリマス、即チ國力ニ相當ナル計畫ヲ立テテ料理スル考デ居リマスノデ、若シ其場合ニ於テ、ドウシテモ國力ニ應ゼヌト云フコトナラバ、切ッデシマフヨリ外ハアリマセヌ、此三十九年度ニ要求ニナッテ居リマスモノハ繼續費トシテ要求シタモノハ未ダナイノデ、即チ一年限リノモノニナッテ居リマス、私ノ考ハ國力ニ應ゼザルモノハ、之ヲ切リサウシテ國力相當ノ料理ヲスルト云フヨリ外財政ノ途ハナイト考ヘマス、又第二ニ一方ニ減ジテ、一方ニ募ルト云フコトニ付テ、御疑ヒガゴザイマスガ、是ハ是ノ如クニ公債ノ増加致シマシタ場合ニハ、已ムヲ得ヌ手段デゴザイマス、如何トナレバ、此公債ノ俄カニ増シマシタ場合ニハ、是ガ經濟上ノ言葉デ言ヒマスルト、宿ニ落着クト云フコトヲ申シマスガ、宿ニ落着クマデハ、注意ヲシナケレバナラヌト云フノデス、宿ニ落着クト云フノハ、發行致シマシタ公債ガ、ソレヲ永久ニ持ッテ居ヤウト云フ人ノ出テ來ルマデハ時ガカカル、即チ外國デ發行致シマシタ公債ノ中デモ、同シ利息ノモノデアッテ、古ク發行シタモノノ方ガ價が高イ、是ハ一向道理ノ解ラヌ說デアリマス、同シ利息ナラバ同シ相場ヲ保チサウナモノデア、又現在我國ノ市場ニ於テモ、同シ五分利ノ公債デアッテ、整理公債トカ、五分利付公債トカ、軍事公債トカ、ソレガ皆價ガ違ヒマス、是ガ今申シマシタ宿落ニ付キタルモノト、落付イテ居ラヌモノトガアルカラデアリマス、宿ニ落付イテ居ラヌ方ハ、多少ソレヲ賣買シテ、利益ヲ得ヤウト云フ人ガ持ッテ居ル、或ハ銀行デアルトカ、何トカ云フモノガ、此公債證書ノ値ガ宜カタラ賣ッテ、多少其間ニ利益ヲ得ヤウト云フ人ガ持ッテ居ル、其間ハ公債證書ガ宿ニ落付カヌデアリマス、ソレガ或ハ悉ク保險會社トカ、富豪ノ人トカ、或ハ貯蓄銀行ニ納マッテシマヒマス、賣ルモノガナ

クナル、故ニ利ハ同ジデアッデモ、値段ハ宜イト云フコトニナリマス、我國ノ日露戰爭ニ付イテ起シマシタ公債ハ、皆新規ナモノデ、而モ一年乃至二年ノ間ニ發行シタモノデスカラ、マダ宿ニ落付キヤウガナイ、所謂市場ニ浮イテ居ルモノデアリマス、ソレヘ持ッテ往ッテ、新タニ發行スルノデスカラ、餘程其運用上ノ手段ニ注意致サナケレバ、此公債ノ價ガ下リ出スト、一旦宿ニ落付イタモノガ、宿カラ出テ來ル、サウスルト一方ニハ公債ヲ政府ガ發行シテ、賣物ヲ多クシタ同時ニ、今度ハ一度納マッタ先生ガ、續々市場ニ出ルトナルト、是ニ於テ財政ノ運用ガ止マリ、或ハ非常ニ高イ利息ヲ拂ハナケレバナラヌコトニナルノデ、故ニ今日ノ場合ハ減債法ヲ設ケテ、始終政府ガ一方カラ買ッテ、宿カラ出テ來タモノ若クハ賣物ヲ買上ゲテ償還シ、一方ニハ時期ヲ見テ募ッテ往カナケレバナラヌ、是ハ獨リ我邦デ新規ニ始メタ仕事デアリマセヌ、十分鞏固ナル財政ヲ持ッテ居ル國デモ是ヲヤッテ居ルノデス、唯其事ヲ表白シテ居ラヌデケデ、ドコノ國ニ於テモ公債ノ價格ヲ維持スル上ニ於テハ、皆ヤッテ居ル手段デアリマス、ソレデ是ガ凡ソ二十年カラ、其平均ノ上カラ金額ヲ割出サナケレバナラヌノデス、ソレカラ第三ノ御尋ノ危險、是ハ我邦ノ財政力ノ上カラ申シマス、俄カニ十八億ノ債務ヲ増シタト云フコトハ、決シテ喜ブベキ現象デアナイ、希クハサウ云フコトノナイ方ガ宜イニ相違アリマセヌガ、此度ノ如クニ計畫ヲ立ッテ往クナラバ、私ハサウ心配ハナイト考ヘルノデアリマス、即チ今日マデ保チ來ッテ、又現ニ保チツツアル金融界ノ順境ヲ保ツコトガ出來ヤウト思ヒマス、而シテ此順境ヲ保ツニ非ザレバ、將來ニ於テ要スル滿韓經營ト云フモノノ見込モ困難ニナッテ來ル、滿韓其他ニ對スル經營ハ、是ヲ悉ク經營ノ歲入ニ仰グト云フコトハ出來ヌコトト思ヒマス、即チ東清鐵道ヲ改築スル、撫順ノ炭坑ヲ開發スル、釜山京城ノ鐵道ヲ改築スル、此等ノ事ヲ悉ク經營ノ財源ニ仰グコトハ、出來ベキコトデアリマセヌ、併ナガラ茲ニ政府ノ財政ノ信用ニ於テ鞏固ナルコトガアレバ、其資金ヲ融通スルノ途ハ多クアルト考ヘマス、又是ヤッテコトガ決シテ危險ナモノデアナイ、一方ニ於テ事業ヲ起シテソレダケノ殖益ヲ造ルト云フコトニナルノデアリマス、先ヅ私ハ左様ニ見込シテ居リマス、併ナガラ諸君ニ於テ減債ノ方法ニ付テ、御反對ノアル以上ハ、後トノ事ハ御受合ガ出來マセヌ

○淺野陽吉君 大分努メテ先日カラ御答辯モアリ、大分分々ヤウデスケレドモ、惜イコトニ未ダ大體ニ付イテ分ラヌコトガアルノデ、少シ數字上ノ爭ヲシテ見タイ、全體今度ノ内閣ノ御方々ハ、皆打揃ッテ將來ノ計畫、將來ノ經營方針ハナイト仰セラルル中ニ、實際將來ノ計畫カ稍ヤ立ッテ居ルカノ如ク見エルノハ幸カ不幸カ分リマセヌガ、海陸兩省ノ繼續事業ト、三十年ニ跨リタル此計畫ヲ御立テ下スタモノ、是ダケハ内閣ノ方針ノ定マッタモノト見テ宜イト思ヒマス、併ナカラ其方針ナシ、將來ノ經營ハナイト云フ内閣ニ於テ、此處ニ御出シニナツタモノハ三十年以上ニモ、將來ニ互ッタモノデアリマスカラ、成ルベク此成立ヲ政府ノ御見込ノ如ク致シタイト思ヒマスカラ、今少シ數字ノ爭ヲシテ見タイ、ソレデ以テ若シ宿ニ落着キナケレバ仕方ガナイカラ、是ニ向ッテ反對ヲ致シマスガ、私が一ツ爭テ見タイト思フ數字ハ斯ウ云フコトデアリマス、大藏大臣ノ說明ニ據ルト三十九年度ノ歲出ガ四億九万ト思ヒマスガ、其中ノ二億二千万圓ガ時局關係ナルモノデ、二億六千万圓ガ通常ノ歲計費デア、サウシテ此時局ノ二億三千万圓ノ中、將來ニ繼續シテ返還スベキモノガ一億七千万圓、斯ウ云フコトデアッテ、サウシテ西園寺

ノ首相ガ、豫算會ニ於テ委員會ニ於テ御答辯ニ據ルト、行政ノ刷新ハシナイ、ソレ故ニ政費節減ハナイモノト見テ居リマス、ソレハ是ガ三十九年度ニ終テ、四十年年度ニハ時局關係ノ費用ヲ除キテ、通常歲計ハ矢張二億六千萬圓計上セラルモノト推測シナケレバナラス、ソレカラ大藏大臣ノ説明ニ依テ時局關係ノモノノ中カラ、一億七千萬圓ハ四十年年度ノ歲計費ノ中ニモ計上セラルモノト推測シテ、ソレヲ合セマスルト、四十年年度ノ歲計ヲ想像致シマスレバ、四億三千万圓ト云フ金額ガ現ハレテ來ルモノデハナイカト思フノデアル、ソレハ是ハ四十年年度、三十九年度ニ於テ政府ガ計畫サレタ滿韓經營其他ノ事業ノ外、一モ新タラシキ事ハシナイト想像シテ、四十年度ノ豫算ニハ歲計費ガ四億三千万圓ト云フコトニナッテ出テ來ルノデアリマス、ソレハ尙陸海兩省ノ意向、其他ノ意向ヲ推察スレバ、一億七千万圓ト云フモノハ、其性質ヲ變ジテ、必ズ經常費トナッテ現ハレモノト思フ、尙其他ニ幾多ノ新タラシキ費用ガ四十年度ニハ必ズ現ハルモノト推察ガ出來ルノデアアル、故ニ四十年度ノ總歲計ハ私ハ五億、若クハ五億ヲ超過シハシナイカト思ヒマス、先ヅソレハナイモノト見テモ、四億三千万ノ歲計費ハ、ドウシテモ免カレヌモノト思ハレル、サウシテ一方ノ收入ノ方ヲ考ヘテ見マスルト、今年四億九千万圓ノ歲計ノ中、八千万圓ヲ引去リ、差引キ四億一千万圓ガ殘リ、其中臨時收入ノ中デ、戰利品賣下代トカ、或ハ船舶ノ賣下代トカ、今年ハ當テニナルカ、明年續イテ確カニ歲入ト見ルコトノ出來ヌモノガ、千三百萬圓程アリマス、ソレヲ引去リマス、僅ニ四億或ハ三億位ノ歲入ニ減ズルノデアリマス、歲出ノ方ハ五億ニモナリ、歲入ノ方ニ於テハ三億位ニ減ジハシナイカト思ハルノデス、豫算委員會ニ於テ大藏大臣ガ將來ノ財源トシテ擧ゲラレタ、撫順ノ炭坑ノ收入トカ、東清鐵道ノ收入トカ、其他滿韓經營ニ於ケル收入ノ如キハ、ナカノ一是ヲ擧ゲルニハ多大ノ費用ヲ要シタ、後初メテ生ル、モノデアル、少クトモ四十年、四十一年、四十二年度邊リ……先ヅ數年デナイトシタ所ガ、經費ハ超過スルモノト信ズル、健全ナル收入ハ先ヅ三億四五千万圓ノ歲入デアアル、ソレヲ以テ四億以上ノ歲出ヲ支辨スルコトニスレバ、今大藏大臣ハ善キ算盤ヲ持ッテ居ラレテモ、減債基金デ償却ラシテ往ク、今年度ノ二千万圓ヨリモ多クノ公債ヲ今年ニ於テ、起サネバナラス、又四十年度、四十一年度、四十二年度モ同ジ趨勢デ償却スルヨリ、ヨリ多クノ公債ガ起リハシナイカト思フ、私ガ今迄想像シテ擧ゲタ計數ハ、大藏大臣モ御承認アラウト思フ、此數字ノ基本ニ於テ私ト同意見デアラナラバ、四十年以後ノ財政ノ想像モ亦同ジデナクテハナラヌト思フ、ソレハ將來ハ分ラナイト云フ、漠トシテ御答ヲ促スノデハナイ、私ハ據ルベキ根底ノアル數字上ノ計數カラ將來ノ御見込ヲ御尋ネスルノデアアルカラ、今度ハ將來ノコトハ御答シ難イト云フヤウナ、曖昧ナコトヲ云ハズニ、數字上斯クアルベキモノデアルト云フ、私ト同意見ノ御答辯ガアラウト思フ、此問題ハ御答辯ニ依ッテ此基金案ノ贊否ハ殆ド決スルデアラウ、結局スル所一方デハ減債ヲスルケレドモ、一方收入支出ノ數字ノ上ニ於テ、ヨリ多クノ債權ガ起ルト思フ、ドウカ私ノ問ヒマシタノハ、漠トシタ空想ヲ畫イテ問フタ譯デナイ、數字ヲ基本トシテ御尋フシマシタカラ、數字ヲ基本トシテ確カニ御答辯ガ欲シイ

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 今淺野君ノ御話ノ通り三十九年度ニ於テ、確カニ經常ノ歲出ニナッタモノハ、一億七千万アリマス、其外ニ就テハ臨時トナッテ居ル即チ大石君ノ問ニ對シテ、私ノ答辯シタ通デアアル、成程想像ヲ御畫キニナレバイロノナル要求ガ起ル、滿洲ノ事、朝鮮ノ事何レモ、數多ノ費用ヲ要スル問題ガ起リマセウト思ヒマス、併シナガラ此一億七千万ヲ除キテ、後ノ事件費ハ皆經常費ニナルト云フコトハ、固ヨリアリマセヌ、故ニ此等ノコトハ四十年度ニ於テ是ヲ決定シテ即チ此國力ノ許ス範圍内ニ於テ、之ヲ決定スルコト云フコトガ今日ニ於テ一番必要ト考ヘル、ソレハ公債ヲ募集スル高ハ、即チ東清鐵道ノ處分、或ハ撫順炭坑ノ處分ト云フコトニ付イデハ、多ク募集場合ガアルト思フ、處分如何ニ依ッテハ、ケレドモ是ハ即チソレノ其法ニ依テ、償却ノ途ヲ立テル考デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○淺野陽吉君 續イテ御尋ヲ致シマス、今ノ計數上ノ爭ハ如何ニシテ見マシタ所ガ、何様世ノ中ニ將來ト云フ便宜ナ文字ノアル以上ハ、到底將來ニ就テハ確カナコトハナイモノト認メテ、私ハ夫ニ引續イテ基金案ノ條文ニ就テ、御尋致シタイト思フ、第六條ノ場合ハ、強テ償却シナクテモヨイ場合デハナイカ、斯ウ云フヤウナコトヲシテ、國庫ノ利益ニナルコトモアリマセウガ、第六條ノ場合ヲ推察スレバ、強イテ此場合ニ買入償却ヲシナクテモヨクナイカト想像スル、大藏省ノ金庫ノ上ニ於テモ、亦社會ノ爲メニ金融上ニ於テモ、強イテ此場合ニ買入償却ヲシナイデモヨクナイカト思ヒマス、此六條ノ場合ヲ適用スレバ、是ノ如キ利益ガアルト云フ御見込ヲ聞イテ置キタイ、最モ基金案ノ大體ニ於テ云ヘバ、私ハ此第一讀會ノ場合ニ於テ、實ハ或ハ廢案論ヲ出スカモ知レナイ、事ニヨレバ是ハ大事ナ二十年以上ニモ亘ッタ案デアルカラ、成ルベク贊成シタイト思フケレドモ、事ニヨレバ廢案論ヲ出スカモ知レヌ、依ッテ第六條ノ場合ニ於テノ時期ニ付イテ御說明ヲ願フデ置キマス

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 此六條ハ額面以上ニテ買入償却ヲ爲スコトヲ得ルト云フノデゴザイマスガ、是ハ現在ノ法律ガ少シ惡イノデゴザイマス、御承知ノ通り買入償却ヲスルト云フコトハ英國アタリデハ慣例ニナッテ居ル、詰リ公債ノ額ト云フモノハ、其公債ヲ持ッテ居ル人ガ損ヲセヌト云フコトガ必要デアアル、ソコデ公債ヲ買ウ代價ノ損益ヨリモ、公債ノ直段ガ一圓デモ二圓デモ高クナッテ居ルト云フコトガ、公債ニ取ッテ大變ナ利益ヲ生ズルモノデ、現今ノ日本ノ法律ハ額面以上ニ買入償却ヲ爲スコトヲ得ルトシタノガ誤リデアアル、ア、云フモノソツイ拵ヘテシマフタノデアリマシテ、外國デ以テ買入償却ヲスルト云フコトハ、額面以上ノ場合ニ於テ必要ヲ認メテ居ル位デアアル、是ハ一枚一枚ヲ買ウ買入ノ損益カラ云フコト、成程チヨットオカシク御感シナリマセウ、百圓ノ公債證書ヲ政府ガ百一圓デ買ウト云フコトハ、總テノ公債ガ一圓價ガ高クナルト大變ナ利益ニナル、會社ノ株ニ付イテ考ヘテ見テモ、會社ノ株ガ一圓高一圓高イト云フコトハ、一株ノ損益デハナイ、會社全體ノ損益ニナルノデアリマス、故ニ現行ノ法律ニ對シテ其取テ買フ書イタノハ、實ニ誤ツタモノト信ズルノデアリマス、故ニ現行ノ法律ニ對シテ其取除ケラ書カナケレバナラヌモノデアリマス、ソレハ利益ガアルト認ムルキハ、額面以上ニテ買入償却ヲ爲スコトヲ得ト書キマシタノデ、其償還ヲスル場合ニ於テ、未ダ期限ノ來ヌモノ、種々ノモノガアリマス、ソレハ例ヲ擧ゲレバ澤山アルノデアアルガ、大キナ利害ヲ考ヘマス、今私ノ申シタ一圓直ガ高イ安イト云フコトハ、何億ト云フ損得ニナル、總テノ物ノ有價證券ニ響クノデアアルカラ……

○小田貫一君 種々御質問ニナリマシテ、大概此案ノ精神ハ分リマシタガ、尙ホ私ハモウ一ツ緊要ナル點ト認メテ居ルコトニ付イテ御尋ヲ致シマス、一昨日隨時償還ト濟崩レ云々ト云フコトニ付イテ、大藏大臣ノ御答ヲ得マシタガ、是ハ大藏大臣ノ誤解デアッタカ、私ノ言ヒヤウガ足りナカッタカ、是ハ大藏大臣ノ答辯ガ謬ッテ居ルト思フ、ソレハ今茲デ彼レ是レ言フト議論ニナリマスカラ、是レハ止メマスガ、此處デ斯ウ云フコトヲ御尋シタイノデアアル、此減債基金法案ガ二十箇年デ一億一千万圓以上ヲ取除ケテ置イテ、之デ以テ減債フスルト云フ案ガ成立シタ曉ニ於テ、二十箇年ノ間ニ國家ニ非常ナルコトノナイ以上ハ、此ノ案ノ通りニ實行出來ルト云フコトヲ先ヅ假リニ信ジマス、併ナガラ國家ハ常ニ動クモノデアアル、財政經濟ハ常ニ活動スルモノデアアル、又國家ハ如何ナル事變ガ生ズルヤモ知レナイ、即チ三十年ノ間何事モ事變ナシト云フコトハ言ハレナイ、此期間ニ財政ニ非常ナル變動ヲ受ケテ、減債基金ヲ中止スル場合ガ生ゼヌトモ言ハレナイノデアアル、其適例ハ昨日ノ色摺新聞ノ社説ガ極ク好イ適例ト思フ、英國デ減債基金ノ案ヲ拵ヘテ、之デ以テ公債ノ信用ヲ維持シテ居ツタ、然ル所ガトランスバールノ戰爭ノタメニ、減債基金ヲ中止シタ故ニ、コンソル公債ハ百十磅ノモノガ九十磅ト下ツタデハナイカト云フコトガアル、其新聞ノ方カラ言ヘバ、ソレ故ニ斯ノ如キ場合ニ至ツデ、此減債基金ト云フモノガアツデ、果シテ減債基金ノ此精神ガ貫徹セラル、ヤ否ヤト云フコトハ、ドウモ危險ナ法案デハナイカト云フコトヲ私ハ憂慮スルノデアアル、故ニ包ミ匿シノナイ所ノ御見込ヲ御話ヲ願ヒタイノデアアル

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 唯今ノ御尋ハ、私ノ答辯ヲ俟タンヤウナ御尋デアリマスガ、詰リ基金法ハサウ云フ事ノタメニ基金法ガ必要デアルト云フコトニナルト考ヘマス、即チ英吉利ノ如キ例ガ今後我邦ニ起ルト云フト、今後ノ財政ノ運用ト云フガ止ツテ來ル、ドウシテモ始終公債ノ價格ヲ保タセナケレバ、今後ノ財政ハムツカシイ、併ナガラ第二ノ御話ノソレヨリ以上モ困難ノ場合ガ起ツタラドウスルト云フ御尋デアリマスガ、ソレハマアサウ云フ場合ガ生ジタ時ニ、能ク研究スベキコトデアツデ、今日ニ於テハ第一ノ問題ガ一番必要ナコトデアアル、是ハ寧ろ御尋ネニ依ラデ益々辯明ノ必要ガ無クナッタト考ヘマス

○委員長長谷場純孝君 諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、今日ノ會ハ是デ閉ヂマシテ、次會ニ於テ非常特別稅法中ノ改正法律案ノ大体ニ付イテ、質問ヲ致スヤウニシタラドウデゴザイマス

(「異議ナシ」ノ聲起ル)

○委員長長谷場純孝君 ソレデハ次回ノ會ハ政府委員ノ都合モゴザイマセウカラ、委員長ノ方デ相談ヲ致シマシテ、公報ヲ以テ御報告ヲ致スコトニ致シマス、是デ今日ハ散會ヲ致シマス

午後二時五十九分散會

明治三十九年一月三十一日印刷

明治三十九年二月一日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局